

がんばれ！くじらちゃん

～くじら君のおともだち～

文：ちこ

絵：ひらり



いま ^{ほな}お話しするのは ^{みなさん}みなさんが
まだ ^う生まれていない ^{ひかし}ずっと昔…

そうそう、^{みな}皆さんにね、
まだ ^{ほなし}お話をしていない、
^{ひと}もう一つだけ、^{わす}忘れていた ^{ほなし}お話があったんです。



カラスたちが、わいわい言っています。

「これ、ヤバくねー？」

「動いてないよなー」

よく見ると、くじら君が、海でここで、まっすぐに
突き刺さったままです。



「オイラがさー。
くじら君に、一言言っちゃったからなあ」

「まずいことしたかなー」

「だよなー」

それを、すぐそばで、そーっと聞いていた、
オレンジ色のくじらちゃんしつぱんが、突然、
「あなたたち！くじら君くじらに なんて言ったのよー」



「ゲーツ！」

まさか、すぐそばで聞いているとは知らなかった
カラスたちは思わずビックリ！！

また食べられるかと思って逃げ出そうとした
けど、やっぱりすぐに追いつかれてしまいました。



くじらちゃんは、オレンジ色^{いろ}だった^{からだ}体が、みるみるうちに、
赤^{あか}くなっています。

ガタガタ^{ふる}震わせながら カラスたちは、
「あ・あの一、ですねえ。

く・くじら君^{くん}にね、ぼ・僕^{ぼく}たちを食べても おいしくないよ。
お・お星^{ほしさま}様^{ぼっ}☆の方が、お・おいしいよ!っで・」

「それで？」

さらに赤くなっています。

ガタガタ震わせながら、

「た・たぶん」

「お・お星様☆を食べたのではないのでしょうか？」

カラス
とても!!
は まずい!!
☆は コリコリに
すごく!! おいしい

「???'

「!!!」

「そうか!お星様☆を食べたのね!」

★ずく
おいしい!!

今だ!!

くじらチャシは、どうしたらいいかと、空を見上げて
考えている間に、

【今だ!】

カラスたちは、そそくさと逃げました。



さて、その日の夜も それはそれは星がきらめく とてもとても
ステキな夜でした。

「お星様☆を食べたら、体が重くなるのね！」
それでは、まずは、一回ゴックン。さらに、一回ゴックン。

「たしかにうまい！」
くじらちゃんも、やはり「大満足」です。

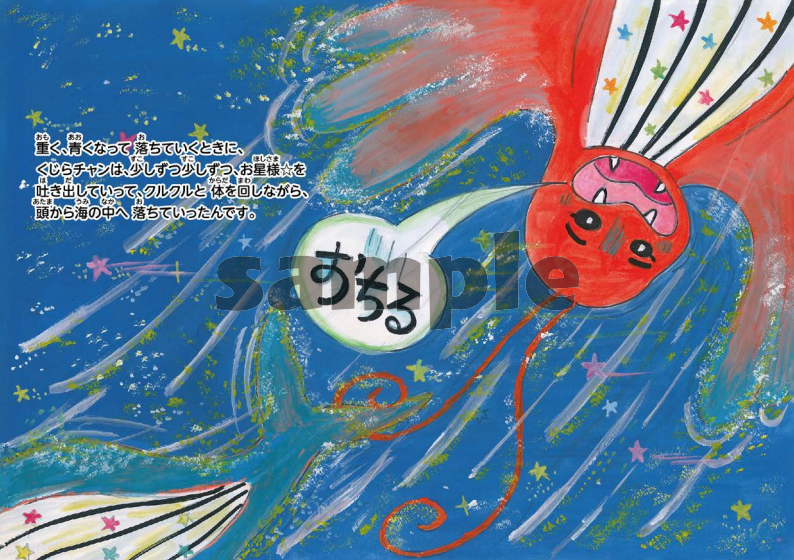


すると、
やはり、くじらチャンのからだ体もおも重くあお青くなっていきました。

そして、お落ちていきます。

ですが……

実はね、くじらチャンは、ちょっとだけ、くじら君よりかこ賢かこかったんですよ。



おも重く、青くなって落ちていくときに、
くじらちゃんは、少しずつ少しずつ、お星様☆を
吐き出して、クルクルと体を回しながら、
頭から海の中へ落ちていったんです。

どんどん、クルクルと回^{まわ}って行って、とっても、とっても、スリムになっていったんです。

sample





ためしよみ

sample

は

ここまでです



9784909939760



1928771012000

ISBN978-4-909939-76-0
C8771 ¥1200E

定価：本体1,200円+税